-

「生きるということ　死ぬということ」を読んでいただいた方々へ
　つたない文章に目を通していただきありがとうございました。
　今回は、いわゆるある種の「リタイア」を迎えた両親と伯父の死を綴りました。
　死は年齢にかかわらず、突然訪れることがあります。幼くして「死」に直面し小さな体で戦った「命」を思うと、わたしはどれほど一生懸命力強く生きているだろうかと考えてしまいます。
　今わたしがわたし自身にできることは？　そして誰かのためにできることは？
　最期を迎えるとき「一生懸命生きた」と言えたら、それはわたしにとって「良き人生だった」と思えるでしょう。
　このエッセイが、身近な人とこれからどう「生きたいか」そして、どんな「最期でありたいか」話し合っていただけるきっかけになれば幸いです。